倭讀一蒙集

後編

四

伊地知文庫
文庫20
355
9

俳諧一葉集遺語之部

古学庵佛兮
幻窓湖中　編
坎窩久蔵　校

一翁曰萬代不易あり一時の変化あり此二ツに究り其本一也其一と
いふハ風雅の誠也不易をしらされハ実に知れりといへす不易と
いふハ新古によらす変化流行にもかゝはらす誠によく立た
る姿也代々の歌人の哥を見るに代々其変化あり又新古
にもわたらす今見る所むかし見しにかはらすあはれなる歌多し
是先不易と心得へし又千変万化するものハ自然の理也変化
にうつらされハ風あらたまらす是に押うつらすといふハ一端

伊地知氏書冊

文庫20
355
9

法門を賛嘆するとなんとかいふ誠をさとるなり
きめに心をこころさしつるものは諸の変化を知て外に人を
恐れうるものの世俗千里を居ながら一歩
自然とすむ理なしかれども未いくばくか変化すること後の古人の
俗を忘れることの外四時の押しつるとく物ゆゑ
なれ物のこころと寄り
一方に学ぶ者は風雅に入るものの心を知り外ながら自然定
なるかなれば自然とうるはしうるはしうる
されば和歌を工むも先学ぶ誠を勉さるの俗し俳を勉
ると云ふ此外に古人の心を指す此く八法の心を能く知て世
心を知れば自然に諸の法門の
法をわひとく天然の系心のすちを押直し変を求て

自然すなはち誠を勉ると八法しかのみ師の
系心を一すじなるに和歌を法の心を悟て門をひら
とるべし自然にして私の心をひらき門人をくしを押
直すべし私の心は八法千変万化の心を押直すべし
門の外しも私をくるまれもいるのしかるべしとうるさきこれ
のうちにとりて除千明八法八法を入て世俗の
ゆゑに情を捨ずして自然と外なるものゆゑに
しかるものは自然に系心二を兼て世
情誠をすてて私意のをすてて外なる
は千を底系心の自ひとりつとめ誠せられ八法と
又私意ゆゑ法誠穿鑿せられるものの八法史を私意をあらため
外に只情を法誠穿鑿せんとしるあのすとして

名をやつしつゝもと云風友の中に名目とする功者なる人ありける
此の師も俳諧に三尺の童子とよ師匠の句をもつて作りのよし
けるがれしく殊に誉されしもので功者の句を示されしなり
宗匠に入門して善くもよく教へしと申す事を教へ八句宗匠に
のぶる此も俳諧八宗匠の名をよく尋ねしいづれ雅も[illegible]相手
をそこなひもの宗匠宗匠とて心得て教へとして又或時八
余宗匠をるもして句を志るもしれものなりとして宗匠を
すこし生きて善くの義を門人功者を以て只雅句をなんと
私意をたてお門下にて開て居すし学問でしるの俳句
宗匠をしるにの[illegible]家事も俳諧の好さる人より
お蔵に来てる人早く俳諧に入るも宗匠する　或俳書に
見えたり

一 去芳亭翁曰く宗匠は八宗匠と持つ席に臨みて文甚だ多し百千
[illegible]を入れ思ふこと来たりて[illegible]集めて五七やすく念なし文
世の人おるを八印友なしとさびしく示さるゝ細かに[illegible]
附て六木仙[illegible]して持[illegible]きりとむ心[illegible]所に在ること
梨子[illegible]口つ[illegible]三十六句とれやり句作をしるしとみ[illegible]
仕るとられ功者の私意をもつて[illegible]さんとの細き[illegible]の心をし
よく修行し学問を勉て[illegible]に臨て案じ教へて[illegible]の儿案
[illegible]すらつ[illegible]るく[illegible]を勉て心の位[illegible]
[illegible]の執く[illegible]句[illegible]宗[illegible]教して[illegible]精[illegible]
句[illegible]すちのかぞ[illegible]
[illegible]く[illegible]して侍[illegible]大[illegible]の三[illegible]の文[illegible]
[illegible]

一去年ちる野にしかハ他仕の花をしたかること木之ものゝ
ゝる心地をとゝる為者ゝ新千歳のふと新しみの月ひとく
清ゝ見れる人ゝ悦て歌ゝ人ゝ見れ一ゝ知てねのこ
をさめて侍りとゝれ心新しゝハ者ゝを知
有て一歩自然千すもゝ地ゝ屋ゝ侍有ゝ樹ゝの五月や
田のくゝ ゝ ハ濁不男し花ゝ見ゝ侍屋ゝ俗屋ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ

一翁曰乾坤の変ハ風雅なるねと新なる事不変の変し新
ものハ変し世ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

又慈公を自の ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

一翁曰仏法ハ先優美ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
師の自ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

仏法本の ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

[illegible]

此白はかなくやさうなくやさうなくやあやめとしぬ
[illegible]

世をはかう此身かまうる山の松陰にうゑし苔の帰と
[illegible]

[illegible]

杜牧の早秋の詩云少杜の中山の
[illegible]

[illegible]

此白は古人の詩を[illegible]
[illegible]

一 此白鶴林の詩をもつて古来集撰の詩菊の文をもつて
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊日此白をもつて[illegible]
[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一長根八さくらの不二

此句菊田氏大雅子入て句を詠共心ゆかぬ所有の人か賀茂川とゝいふ川をこゞ[illegible]みと云句なりなるを往句とをもはしろ紙を共[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

此句菊田たくみて[illegible]句なりなるを[illegible]て初なる句しかのをもくの句八又きんとゝいひをゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 二りをもめるうゝ[illegible]

此句八元々宜中しいあく解こんひをつゝをゝ[illegible]

の野菊田氏歌意つゝひをゝ越向をゝをゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 芋焼や衣掛の田舟のうら　水

[illegible]

一　ゆる良るの一本ゆうしらめの花

去芽子句八一とせ伊勢の手俤ひて梅の下くち云すひ
しにるのれ日餞の作ゆうに洲一本寺に梅ゆくそかりて
ゆしと社人の芳うそと名句とうしてとはふれしと箱日たし
うう句下の恵俳の達人おくく白ことうむう強よ句梅の下
そしくしに恨しくなかそとし思辞の心うけうに世のく
ようと思ひきれハやすうふ人ぶ

一　いれつ下そうとうやみの残媚うれ

此句箱日門人此芳子ゆやしとうとうとのういひて
うくすう白ゆうくうとも去芽子ゆやしうんとうとうの形
ひとうしうはひつのひしさこうとうとめまく

旅人とうう名ようれんうつ此る

去芽子句八箱武はうと旅此のうのうとしのうとうの句のうう
うう句しうとうれん和此句箱日とうひうと寅うとうとうと
とゆうくうす強のくうとうとおううて寅うこうく寅うう
門人うかうれうし一風情ゆうのし句此うもう
師の心の句ふうと強へし

一　行くや　此　此芽子　市とゆく　鳥

箱日此句去文寅のいふうみうとうし

一　法　鮒の墨くゆうと　逸の店

此句箱日ひうひうとうとうるうゆうの武句強子うひうし
かくくうくうさうけん和拡逸とううひの景形人のしぬ
ふうし又日餞の墨句し峰の句とし八芽箱と法鮒のうく記
条元此とうと逸の店とひうとうかのうううとと寅

一 春立や新年ふるき米五升
此句翁曰似合しやとはじめ五文字有けるを口をしき事なりと

一 風色やしどろに植し庭の秋
去来曰此句ハ方丈庵を尺てうの句也風吹やうにしどろに植て一まひろき風色
やさしく見て住て所をとらへ字をしるす事なれバ色を
云方に見えしとなり

一 六月や峰に雲置あらし山
此句落柿舎にての吟也至嵐山と云句骨折て雲やと

一 川風や薄柿着たる夕涼み
此句涼しの云に心ぬけて心功ありしと云

一 雲の峰[illegible]
翁曰ひとりの弟つけける中にきハ此折し吟中入る事を

いひくも笑あり[illegible]ともいふべし[illegible]

一 乾鮭も空也の痩も寒の中
此句翁曰心の味をいふべんと数日膓をしぼると骨折ましハ
しけふとかし[illegible]

一 [illegible]ときけハおそろしき[illegible]の露
此句翁曰つくしの魚の[illegible]の爪[illegible]云ハ[illegible]
云[illegible]

一 木のもとに汁も膾も桜かな
此句の附翁曰花見の句のかゝりを少し得て軽みをしたりと

一 [illegible]
此句八因の[illegible]人のしらぬ[illegible]
されたり

七夕や秋をさそもつけめの板

去芳ら此句ハ梅のくしゐ[illegible]ハ二子ゆゑとゝめさせし
ゆゑしらくゝ百合の葉ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

大石千[illegible]

[illegible]

[illegible]

去芳ら去句浄瑠璃の大仏殿の白し人をとゝ[illegible]
再作ゆゑて文句の方ゆゑ[illegible]

はけ[illegible]ハ白魚ゆゑ[illegible]一寸

此句ゆゑ先ゆゑ[illegible]と云文言ゆゑ[illegible]

まし[illegible]や[illegible]

此茶屋ハ翁曰人間ゆゑ止ゆゑ[illegible]

梅ゆゑ[illegible]

一支考ら文祇七の文翁桃花ゆゑ[illegible]人ゆゑ[illegible]
作ゆゑ支考の集作ハ[illegible]の桐火桶ゆゑ作ゆゑ[illegible]
とゝハ

梅ゆゑに此つゝ日のひゝ山[illegible]

なゝくさしゐ[illegible]の艇の[illegible]

支考ら梅ゆゑ[illegible]翁ハ[illegible]
[illegible]なゝく[illegible]ゆゑ[illegible]の艇の[illegible]

[illegible]

[illegible]大仏の木節華ゆゑ[illegible]

[illegible]

翁此句ハ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]

[illegible]

一　秋　風ハ吹ども　青ー　栗の　穂

此句いうの[illegible]をおうしとる吹ども青ーと
[illegible]句[illegible]れ[illegible]さ栗[illegible]

一　一[illegible]一度つ[illegible]なる句

古芳ら此句千[illegible]の[illegible]通[illegible]
[illegible]句千[illegible]ハ[illegible]迫ひ作[illegible]

一　加賀

此秋ハ[illegible]

此句[illegible]句と此句[illegible]
此[illegible]

一　名月や[illegible]美ー[illegible]

[illegible]句此水の名月と名月や[illegible]
[illegible]

一　[illegible]

古芳ら此句ハ[illegible]
[illegible]
女の[illegible]ハ此[illegible]
[illegible]
因此[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なるべきものとて、ものいひ侍りしに、老人の侍りしが、
言葉にもれいでて、侍りしとぞ、
秋とこそつくべきものの
一
古芽を、毎日、つゆのいとまなくらんと、
他所にいで、思ひまひ侍りしかば、
瓜の事すさびて、
白瓜の形と、食事の物を、時に、
一
白瓜、何の、茂白、
如くに、侍らん
古芽を、白瓜の、
色、初の、
一
古芽を、白瓜、瓜のもとに、
て、蛾、
侍る

一
人、
秋のくれ
一
古芽を、二月、
所思、
桐の木、
一
古芽を、
と、
侍れ、
一
古芽を、白瓜、
元、
とこそ、
侍る

一門人の白さえやゆかしの紙ハ是有歌とをかう出門和尚是
月和こそうする白し味ひ〳〵と言う
一去芳之門人の白さ松風千新酒を酌ます山後所と言う翁
曰山後を和尚ゑ千すへ〳〵とやされ〳〵其歌ゆえの所うつり
葉所とにいす所ハくしめ其山後をつへ〳〵とし
一去芳之同和尚の白千いそくやいまおうとを白ふ人の之旨
ゆかさしまくゆゆ白千なす付れハ白おうこゝいうとやや
けをハ所曰いの社なの白うて無〳〵とし所のとハ俗とし所く
おうしまゆをとをとをろ所新のとハ有とし者の之所
千をふ男庸のいまのすを和尚志いつ〳〵其をゆ人千に
きんといをを千新しゆをとみされをとをれる所なといひ
なゝ〳〵うと言ひう

一去芳之同めゝや浄ふう所白ふ傘さをとを白ふう所曰
うふハ和之和尚こなゝうへ尚をとふう浄千白ふくいうさ
ヤやハうゝとやされう
一同く所あゝ和俗加言ハ言の偽をさんとを白ふう所曰和の
詞をうう桜をとくうまゝとやされう
一同者をう楊んする所ゆゝ言白ふう所曰ふの之ゆ言をう
るすうふくとゆい和をハとし四五急の和ふあ志んうをれ
とをを為なゝゝしとし
一去芳うまゝ風やまゆの中ゆくゆの言とを白ふう和曰京言の
白し京白ハ大事のゆのし重彩を京ゆとゆい言の京匠浄く
情ゆ一代一白白千を所和ゆ吉仏ゆ所千いかゝゆう俳
詩をゝ意弟仏をゝ易仏和尚言ゆの白ハ吉ひやゝゝとを

作りくいんあるし此書風宗安平一の白し作代を知らず
しかるに頃年いまむ若の方にしきおとられ作り物
の手に家無八尺紙仕手廣さと定家卿と字ふとし舞台
れむり面定数の字清の時乃本見尺紙仕の家と成
書手作り

一若日紙仕のまき家と云八ようと仕しい字高し心数信数の私
詠さと白手やのかようなる八品むれ本人めうつくしく
さしそもそも並び居さらなるへと成さるなり又仕のるハ
手変方紙としいくともきんする変品仕と思ひ外家字
此三手数作らし

一歳舟若の物手紙八さんし有といへとも安上三三紙ようと今
とふ京十二紙ようハ尺し作るも知さきるんや此なるる変

作りて人ようにあるんさるれハさるるとるるるる
やみ作らし

一若日舟しいふ筋八鬱郷書仕移り授量外ようる起
ようれし心通さされ及ひるるるるやし

一　桐の本にくく有さるる
門きめるるるるる数おするる
若日蒙信八門きんて仕一句手数さすようる紙と方門今
日八ようれ注るれひるるるるるる本しは芽生ようる白ようる
おるるるるるるるるるし

市人ていてこれるるん金仕金
風の戸にくく敷のかれ　桐
幼うるるるるるるる毎ようる引ようて

此芳三八門人杜雲ヶ白し此芳三をんと人ニさたしいひ伝ヘ
沙曰此芳三の仕方ハ[illegible]
ニ[illegible]の八風狂の詩人なるゆへ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
入さ[illegible]武者の如ク此芳三ニ[illegible]
一　おひなくハ枝つよく成ニ[illegible]
角のとうるめまとゆるもの
此紹八門人去芳ヶ白し沙曰此芳三ニ[illegible]
ニ[illegible]脇ニ[illegible]
四季のふしニ[illegible]
[illegible]
一去芳三芳白の[illegible]八[illegible]
梅花ニ[illegible]

[illegible]
一去芳三菊白芳白の紹紹の紹芳三の紹芳白の[illegible]
[illegible]
[illegible]
一菊白人の方ニ[illegible]芳白[illegible]
[illegible]
一去芳三手の紹手の紹[illegible]手紙ニ用ニ[illegible]
[illegible]八門人の業ニ[illegible]

こゝろ手といふても季を定めさるハなき事をしるへし
一去来云翁曰句の中に探し捨し時すてしも然るへしさまゝ
と句キ去はくハさるゝや傍して句のみをもふんとさしもしれ
されしもの物をのひさる事を読つ新たれし
一翁曰季は句の発句の前とあるや如何のいへ誹はさるハ発句もすへし
然ても手がらに誹しとる句ハ一代二三句ハ是あのゝ人の中人下
る翁ハ至て謂ほし行物に和哥はつは路つししる猿の
みを翁に言ふ所をも至て一よくいひけれして出あひきをさ
無してし清瀧川の句のしもふみとこへけて其名をと時
くまし句と言はれてを和をもやとに誹をはく なくして是へ不
を発しとてくるをふえて然とも古来ハにもの有ぬ白
仏の句なるへくことをしるへきひし

一翁曰この句と上の句とを二字三字の句をもまた又千二三字に其
めつらしき句ハ骨折てなき事とし
一翁曰物に其しる句を持て候ぬ人の名をかと言ふとあるとも
一翁曰春秋の季きぬ分気あるしするに習ひ然しけ候よう今
一翁曰発句芳心仕めするハまさひてすし然し此集度のみも
一翁曰俳諧ハ変てなふさる事やはつよく通る千行り哉人の俳諧ハ
見て通をも此物をもかさく是るやうして通るもの大坂か
にとれり
一翁曰哉人の句ハ難をいかんとするに強て句勢すはふれ新ハ
勢をいふてハいふ也又哉人の句ハ去をもちれ去をもふんとするか
所に去をもちれし又哉人の句ハ仮にまとて句の直をもうしふか
なる心の俳ハよし詞の俳ハ好むへからすとし

一菊白ハ[illegible]

一菊白の姿さのみかくるゝとはなけれ人とのゝ[illegible]

一菊白の[illegible]

一菊白牡丹と芍薬を付るの[illegible]

一菊白[illegible]

一菊白[illegible]

一[illegible]

一翁曰趣向の上照宇ニ三體ありて志るけてなし案するにより思ひさだ
てよくへしとしめハめん代のよう不あへしといふ句もくらまた心侍
れハ翁曰これ一體新しく侍るも御指ハさためくらしと心得
て勉して行あるへししとし

一去来曰翁曰発句三味線の数句古くして無上行つらひ宇
代にいれして人ことしいろし句作りをしられし時とつらを
こすりむくもの勉る安らのこころへもはく示し

一去来云去二三子俳諧にこころさして翁に志ゆへを
翁このみくれけす再三の後に人に對して曰これある作し
之これとも手おもふまたあらはれこひてみんとてハ是彼の内
此二ふたつ句とし指られし翁やみ侍んとし其人行せひ止仍
して終に翁の門に入りとし

一翁曰句ハ天下の人にかなへる事ハやすし一人二人にかなへる事か
たし人のためになす事に侍らハなしよからんとたをやめの
中へしこと云ひろう

一去来云翁曰俳諧に思ふ事ハ能書の筆をかりて仕るの人と
これハ翁の心をさくらにまかせてこころ安くいのちを安くそれ尚
すこしもさてのくしかしこくる路ハ何にて作句をいかにするとも
ろふ一經して經に系して自由をなすへんとさしてる詞
あふんの素の中よりひて花を味わせんとより代ゆかの付て
いかりこめて清くしめよの詞あるへし

一去来云翁曰其角ハ同席につらなりて一座の興に入句を云
むさく人といへつらくして無作する外に挿に人のなる
句ハ猶さとしるてしさゆへへかさるれし又曰新をよりて一座

此人ものしられて[illegible]
其菊八生ぜざるとして[illegible]
一古芳を一とし[illegible]
著作し八二三回[illegible]
一古芳を感ぜし[illegible]
和ゝく天和[illegible]
[illegible]
[illegible]

一古芳を法華の[illegible]
白八[illegible]
[illegible]
一古芳を白[illegible]

感ぜのあるし是菊の[illegible]
され八なるとして[illegible]
を[illegible]

一[illegible]時古芳を[illegible]
俳諧[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一古芳を[illegible]
きんを白[illegible]
詩[illegible]
一古芳を人の白[illegible]

武用次のやうに為手門人に乗れしてとり

一為曰俳諧をきらひ俳諧をいやしむ人多く一方にもの上手

にて和歌をもつぱらとし俳諧をもつぱらとせざる

俳諧をしてもて更に外手人甚俳諧をもて事をさとる

ものとなるかゝしむとし

一為の俳諧を愛する者多く為曰俳諧八事句を用ひ

事多く和歌を用ひいひあつて俳れハ俗さすハ一二ハとし俗

ひるものを為しる人多く為曰俳諧一の俳を云所為初まる

俳諧を愛しむ人をもつて為曰俳諧とて俳諧

おのしらぶとしまされる

一為曰歌をもつて元とし俳諧をもつて末とし

きらふとも今ハ若しらぶとしも

一去芳ら為曰発句ハ俗言をもつてむすぶ附ハ俗言をもつて

和歌をもつて元とし俗言をもつて末とし不用ならしむ

をもつてし奪れぬ附ハ俗言をもつてし和歌をもつて

附ハ俗言附をもつてし為曰俳諧

しに大切のもとし

一為曰俳諧の道ハ俗体をもつて主とし学問物を弥千すくるに世の人

人のしるべき大切の事と伝てこれ伝

一為曰発句ハ俗言の歌なるの時ハ俗言ハ多化言

ならるに当時の歌ハ和歌をもつて和歌のもとに

やうに伝ものし

一為曰撰集懐紙短冊古書一ハ一ハ書ハ一ハ只さ

しらぬ人ハ一ハ書ハ一ハ撰ら為の能手をしされとも大し

他名の名失うて[illegible]しく尺[illegible]

一菊四郎紙書の物[illegible]家の何[illegible]
[illegible]

一太芳と菊芳と[illegible]

一菊芳[illegible]の時門人二三[illegible]
[illegible]

[illegible]

一太芳と菊成方と客[illegible]食の後城場をさわ[illegible]と宣
[illegible]

一太芳[illegible]の旅行と紀行[illegible]
[illegible]

一菊[illegible]岐阜の[illegible]時彩羽一人と十二羽て舟と舞[illegible]
[illegible]

えもちれあるさくらなれもちれあるものと又さくら
もちろくもちれるものハひとくなりけさくらと必ず
そ[illegible]ハ[illegible]と言ふ

一翁曰人のつねとそれ必ずそ[illegible]もれ[illegible]ハ和
そ[illegible]し他話の白地ハ[illegible]くてとくし只古情と和きハ人
情通とされハ人間ハよろしく友なくてあるべきとし

一古歌を翁曰人毛非そ[illegible]歌を今そ[illegible]ハ恨
ほくくと人の方をけうとひ老ハなくそ[illegible]

一古芳を一とを丈のは隆寺そ[illegible]を翁そ[illegible]
冠人[illegible]作とてハの閑性を又[illegible]れしと[illegible]古代の歌を
心うけて加[illegible]四の作をべひやうくし

一武線伝作のつもを言ふれしを翁曰作のつ[illegible]ハ法士素者とを

まのをを作をすをのを人も[illegible]をれしかれ者そを
作ハ法者の作風作ををろしとし

一翁曰定家つを[illegible]の秘歌そを[illegible]人を入をを後ろの秘をを
ハ[illegible]歌をを亲ををしを摂若の身とをすを
れをを[illegible]とを[illegible]の心つをハし歌ある[illegible]を歌ひ
をしをんひを秘ををとをを人ををめし

一翁曰作者の歌の書を[illegible]作の[illegible]
文字ハくてををををををををををを[illegible]
ををををををををををを歌の歌ををををを
ををををを文字歌骨の歌をををと言ひをを

一翁曰[illegible]ハ[illegible]をを[illegible]人を作を
をををハむををとを字作をを[illegible]

俗なり義理ハ侍りし侍る人ニ侍るへきしんとしされとも定
家々のを行て又も義理をつめて見るへからひいやしきもしる
る八其身のすれは人とも思ひて出てるをおもへしとも翁
も義理をつめられいやしと云り如何かし
一 古今の作者多人の歌のさまをわかし難しさつ其之の古
事をさし翁曰歌しらるゝ侍ふ千人ニの骨の秀を天取し
貴しるる世しも拾採法功の後の和歌のまを先阿の余の主人へ
いやか加わるゝ吟わるようしいくも中味へしとし
一 其子乃のの翁は季の老人ヶ射詞の付法傘ともの名それ梢
高く来て其を己おもひうら句をすつしとも貝技の心つうそを
翁して老人を貝持と古今侍校の人ともこえし全く句をさせ
さるともこといらるよし

一 翁曰此の時八道の峰入に立ちて文しむかし紀わる海より吟へ今
是を此とさて八よし秋頃より入さく先を洋ひて今の雅に入ハ
近しも後ともの手所遠としても文雨の越路と言ひけや
一 去来より鳥よりも差されハ秋風了すりわくかれいうる弟子又し
てるまり所なくにらいハ能もそもよ見りく又発句券をとよめ
発句ある是根をつるし鳥よるるふみの枕やとひしめたられ
をしし突来つのにかわよるまるの多わらし翁曰説くゆれも
其まのこの小るよの此人くしもやそいかと念へしとし
一 つなさられとは旧園の手みせし清水の内のすられと其をとし
一 とひとみて言ら其やさしさくる作てすらふの名子なりして
山神さよあへし翁同此数ハそとも流るをそわりとを
一 翁曰大てもの気句にそ付のなくめん枝るおく八承るとそわりる

此句は明之深きを求めて新奇を衒わず平淡にして
一 浪化の俳諧は芭蕉翁の門に学び蕉翁の句を求めて
新奇を衒はず平淡にして遠く含みかくれん世をしめす句の
又世俗字実を飽んれば合ちの是非を交へなかるべし
て名利を厭へるを志とせり
一 浪化の翁歳旧廿角を誠て回忌の長を待こゝろ人の程
をしるべし

ものいへば　長しの秋の風

此句をそれ廿角一生涯の是非をいたるべし
翁日ゆ此句のうちにてそれ吟ずるものゝ
とものの人情を通達して是非変化自在なる句の化功深く

新奇を衒はず平淡にして
是句は新奇を衒はず平淡にして　廿角
一 翁此句をそれ廿角の魂はそれ程の
角の生涯の曲をつくすと雖も廿角さびしき念れ
功をそれ程の平生涯の
にしるべし　それは未だ
十数年ばかり秋の風　浪化
一 浪化翁此句をみて歌子俳諧の骨髄はそれ言葉是を
新奇を衒はず平淡にして浪情のさびしきをかくるを主
翁此句をそれ程のさびしきをかくるを
一 浪化翁の伐木丁丁山更幽を一句を
称して俳諧の此句は悠長なるべし又長崎の彩

おくれ行や梭のさしすゝ峰のまき
おとろくや一つ咲てし　この句
とかめし事を以風流を志すもの多し
一 浪化は翁むかし紀行の山中を越のまだ五十とせはかりの男それの
婦と相かせるきつ俵を薪を下して坂井に休らひ居たり女は
男の背をもとめてひとしくこゝは女を背負てゐたるさまは翁をまくらし
同しくつかうれたる人はとや袖にすかりてそれは男のことゝ 猶俳は向の
山のかけひさくらを母子丈ぬる薪をおひし妹とも貞節せうらみて蜂
に出る文章れは詢を殊仏具を供えかの念をいたく山中に
浅からぬ縁を出されしかつこをみてとめてまを翁は恕の
ましとて翁此て筆をとりして山門人に抱付すれるさいは田
矢のやまひやつもともにはやかにいふ

俳名ちかつは四しふくし中しょの女すみやまとの名あり乳木
妹背は行ときよし遊し それよりなん
一 浪化は翁一とせ文月末つかた陸奥の行脚を終て越路へ下らむ
のひとまる直江津といふ霊のかゝる寺にとまりて此事を知
音の人の深き敷もてなして前を乞まくる旅つのれの吟は雨
風に吹れて新に湯まうけて主の答紙のけに
しらひ尺をなしかくやかましきん吟をあつめてなすかけ
れは翁傍らに風情なし仏前に一礼して立出るひるもてまいる
住侶もそうとしてめしの上手なりし 薮をしくへと宿に
のこりて翁善なりて筆あ志して書付あつてその句は
かくて曽良大にするて引返すかのさきたちよりやと諸に
対する所其秋の夕ぐれにもしく山の端まで見てるとぞや

うちへくさらぬやうに常用の筆勒として穎えらる時翁ハ門弟
此反古縁ありてあふるを愛して日夜硯の心化まで八竹卿
の一節を愛楽し ともあそひともなうよういつきの木のいろも
一夜を明 因縁をかへて竹卿に入て覚悟なふくや竹子竹
生て仏説の方恩をしるならん 蓮池の此所の入れしも我身をしれ
俳諧の大なを見入へまさん上下をもあらゆる心も費句守る備さきの
心も人を拯ふも大節にかなへうくふれハ造次もよくし頭
沛にもよくすると心得して傳れし 枝成るのふ主也の其打ふら
生涯も其ものゝとゞめなかれるを第一也 体ふひ能んやと云
されハ翁曰俳志ハまたまたくんとも深沐を指ゆる方をさとしく
るて我于一筋をゆるさんをいとれかよしく覚えし傳ふ也とも是
反古をふ節なるハ件しめ此道の師のつよさをも主吟しあさまし

わかるを竹風のさいと安まてゝし李家善提不なれハいやすこ
もしやさるのいふる射石の水をいましつゝ汲けるも更なくも洗
ひ能堂の俳子あやしまへて一身の汲子の善良かうしつるゝ指
さり香堂の人まさん也しきうしまし

文月や六日も常の夜にハ似ず

とある此句なるへし 奥羽の行脚に象潟を経し給ひて曾良
ハ生質膚接せ同ましかもいとや岩沼に係れ那んに寄
易かなきやく しておもやうなさゝくるる翁の心のこれを
あつけしめ翁をそし一字歎る所あらかれこれを記
これ此柳のれいしかたより便りもあて恨とさへもれ人をも恋く
しちおみろうし 翁俳話を勉へ致そ俳諧をこそされける
ようしいつさんきぎしあてわるふん

一　毛氏手作みてぬくし野の足
　菊四門白八絲子一物の上ゝ枝ゝ支考とかゝらるゝ
　ゝとおもへん
一菊は花のさし芽をそゝ尾張ゝ之ゝうゝひゝゝ門
　人方角の風をゝうゝひけれ八ゝ仏のするゝゝゝ
　のゝゝひゝ
一さ木ゝ梅ゝのきのふの雪ゝ紀ゝゝと八中ゝゝ仏ゝ
　ゝゝくゝゝすゝくゝ千ゝうゝゝひゝ
一芭蕉ゝ菊ゝゝゝと八世ゝ角ゝゝを考ひくゝめて出ゝれゝ
　ゝ秋千きて世角ゝ本ゝかゝうゝゝゝ度ゝゝ本ゝゝの
　名ゝゝゝ紙ゝゝし和ゝゝ如門の人師をきゝて菊と
　ゝのゝゝゝゝ仏門の人香ゝむゝひて菊ゝと称ゝゝゝ

季吟八ゝのゝゝゝ手ゝ和ゝゝゝ先ゝゝゝ菊ゝいゝゝゝゝ八
門人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
天下の人芭蕉菊ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
門門の人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
白ゝゝゝ菊ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
敬ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
自分の菊ゝ義ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なれども下知の一ぢれ子伝て猶この事をいかゝもて芭
蕉と云ふ
一成人の日を蓋門の附句十七註の変わりとして一とせ通ぜ
ざる人々手伝援する定て此すがたを未だ十七
体と申ん四体と申ん世ふる文を改るまでの事なり
を伝授しの上ずハ一ぢれ先手跡水茎にて云を未大体
の書元多後屋子者て蓋門十七体の付句跡ハ伝授一伝る
ようなる事なり名護屋の書家ゆゑ伝をにたし物るまで伝やや
此日見せしに書ずとれずとしも先手加筆の門人何しく
伝ふ事を書ずに伝れハ新しく歳を受ることなれ
ども書ずハ付句の従て立所一伝くだりを受ひ見る
ずず付句の大数を書ずハ伝れるよりも物ハ知て所心

此ようにひろくて限りなき世界にて中もさしめて
反所のはしも捨ひかたく見るとまくまと大変ひ
おもふ所ハ文をもとの一ぢ大体ものもし後通人しくハ
ぢ伝れハ千文をもとて千貫
の人子伝ふ事くーむ付句ハ変方化して蕉を以云の
ようなり
一句日撰集に撰者句ハ入ず切しを載集の附再物伝
有し俗成つの歌ハ伝をれ
なくとも伝ずとも
一
ハ別にして書句のみをくず俗高
武句書新の大廻りにひれも大廻りにて五文やうて
如ぢ二ぢ箱伝ふ子お伝の対ーされども

一俗ごろ四月八日のよりうとて麦こにかりて近辺四日の
ふりをめ八月のなかよりかりて点取俗話ごときしかりて舞日あり八
月なりて中秋菊戦れり日点のあるを四月めこ月めて麦
遊しを肝とつかりさきうりとなりうりて麦しうりて
うりうりうり

一菊日光菊の俳諸八五番俳句ぬうて五月さる人一生
俗話おりくしたりて言う大切なるものさ又四月さる俗
句事俗話ゆうう人ゆう八月の五月さる毎ゆう人ゆく俗話
千八ゆうゆうれき

一俗ごろ四月雲白雲白ゆうゆう寄のおうゆうゆうゆう
大切ゆうゆうゆう

俗つゆ一ゆうゆうみ四月ゆ月ゆう

とつゆくいひ伝ゆうゆう

結城川のあ　せ　しゆうあみ

ゆうゆうゆうゆうゆうゆう結城川の俗一俗ゆう月ゆう俗
一俗ごろ一ゆうゆう芭蕉俗ゆう一ゆう

言　菊　花　ゆ　大　松　ゆ
ゆ　さ　し　ゆ　ゆ　小　豆　ゆ　蝶　菊

ゆ月雲月雲ゆうゆうゆうゆう白し蝶の一ゆう俗話のゆうみゆうゆう
を人ゆう手ゆうゆうゆうゆうゆう人ゆう家ゆう人通ゆう
門ゆう不ゆう思議ゆうゆう三月三月家ゆうゆう俗句菊ゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆう俗句ゆう俗句ゆう
俗ゆうゆう入ゆう俗ゆうゆうゆう八月ゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆう俗ゆう入ゆう俗ゆうゆう

[illegible]

有もふぐ有ぐ一ぐと走て来て　風葉

白髪つゆ[illegible]れて見ぐ人情を[illegible]を以俳諧す形

拾合ぐ合ぐ合ぐ[illegible]ものと知て後代の人は白ぐ[illegible]

[illegible]八猿みの心[illegible]の四五集[illegible]

俳諧を深川の俳諧手法

[illegible]

[illegible]れを[illegible]れを　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

一支考ぐ菊一ぐ嗜ぐ[illegible]

雪の[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]の秋ぐの紫八[illegible]

菊酒ぐの[illegible]八[illegible]

[illegible]八海ぐ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一菊近化の[illegible]初ぐの俳諧の俳諧を松尾桃隣ホ[illegible]の風調

[illegible]

一 世間の物れて後名付くるは[illegible]

[illegible]

一 支考主[illegible]の性はいかしかる[illegible]の風情よりて[illegible]

の大和路の旅行を[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 月[illegible]の禁は一[illegible]

中[illegible]

[illegible]

一 支考主俳概は[illegible]

[illegible]

一 かく[illegible]味方[illegible]

支考主[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一菊は延化の年姫路文考と俳諧良友の山みち
笠屋まつり河舟に乗て嵯峨の
密村の本社詣しされハ文考の和
山ハうれみつんの色は黄ていとしのひ白ハ
所く此所にて丁ていとしく文考ハ中りられハ
又ていとしく菊と尺て咲ひとれて
一　其のしの雪の　雪鴻
文考と此菊の花ハ菊精の使ていと菊と一筋の根原いとし
やされるよし
一其菊と付合の句ハ付るとを論とされと和心のうちハ付
ていとに付ものとハ俳諧とハ自由とおもふくしる和
俳をうちひらきて律儀ハ以習ふ下

又付句ハ去言ハ付ハ初心の時よりとめ定ていと句飛是
さるとをれるものの句ハ和心の時ハ用ていとをれ
とはとはとかくなる一定しと言ひく
一　うの毛の　月毛の菊の花の句　許六
丈夫ていと句事此歌句ハ白ハうの花のうちのうちとて
月毛黄毛ていとて紅つきの言を入ハ白ていとうさんへ
丁ていとの毛ハ紅梅さいハ月毛ハ黄毛おもひめていて
尾され丁ていとハ大ていと山島紅ていと尺て不才を新ま言て留山言ハ
ていとハ大ていと山島紅ていと尺て不才を新ま言て留山言ハ
ハ白ハ月毛ハ人ハ毛ていとて特をていとうのし
一其菊と俳諧の二文ハ今月の上ていとハ姿ハのうくていと俳諧を
待ていとものしされて俳摩と泥て風情ていとうく風情の和ハ

[illegible]

一世勇之介今ハ御白木紙の袋をさゝゝあて千和をとゝのへ
よくハ百ゝ百人を以付とゝ申今の御法をのれ三ゝ世
一世ゝ白ゝ連綿ゝとゝ無ゆゝんのされと京彼名をもゝ
すゝゝゝれん物ゆの袋ゝハ世ゝ為を以切をつゝもゝ世ゝ数ゝ
れハ一世の序故忘おのゝつゝさゝゝとゝゝ御ゝ紙法ゝ
ゝやく上ゝゝゝゝゝゝゝゝ上切と絵ゝゝゝゝと宣ゝゝ

一世本ゝ黄白付白ゝゝゝに入て御ゝ楽し入て人ゝ御ゝ
都白ハゝゝゝゝんなゝゝ一白の上ゝゝゝゝゝゝゝゝ見ゝ切
ゝゝゝゝ人を御ゝハ御ゝゝ糸ハ麻黄ゝ越白ゝ絹ゝゝれ
ゝれハ御く楽しゝ白御ゝ越白の御ゝゝゝゝつゝゝゝ見ゝ
牝ゝゝ無ゝゝゝゝれゝ紙法の時切紙ハ法ゝゝ楽
ゝ人御ゝゝ御ゝゝ法の袋ゝれし

一女角をわくうちに有り狂風はげしく吹て屋根の瓦
砂石を飛散らして一風すみ出くるや一風ありて
ものうち板金物の風ふきたるつくりて変化をなし
さしたる事なしかの心を行ふべくなり
一菊之丞の叔母の孫に金蔵と言ふ者杖を持て休めの為に時分春
事なし一夜金蔵に千歳の食物を山海の珍味を
ならべ美美しく盛り板ながら千歳の場合の工夫
仰せられ菊曰いかに貴の事なれども
況されと恨ふくハ大名の御威のごとくにして風雅の舞れ
ひとへに糸ハ安きを深きのごとくさめめたくひとし成ハ
茶屋ぐ仲まを屋敷内の者を殺ひ成ハ歳うて木こそ一
村の者を張くの小屋を焼物屋

味噌屋を通るものゝ有るを見て
そんと思ひ詰て食事の始ひとをとりそめ
飢ハ糸ふ先ハんうとしく者をとくやをとり風俗のこと
を立んしるとしられうと女房ハ御門に入る一夜絶
し食事の人ゝ有北誠と恥おそれて千歳ハ御番所の
ゝ御ゝすとう筆を取て御ゝ
ゝに菊曰席をとり閑なれハ人ゝの数を
御ゝハ弟をうむさんしとうれハ主人いとるを
をつうゝ弟を物を来うそ
菊曰洗礼御出ハ風俗の出ゝ
糸ゝ
御ゝ茶漬一二椀さうし打ちうの風俗を
御ゝ

ならさる遊里戯場の物すきにして風雅の席へ出ざる所には宗
とされたる全躰の人々は詞を添へ夫よりして何のつらぬ處
をも作りし風雅の粉骨を積まずとに来て待たるゝもの枝
葉なる今の世の俗人の如く末にて行るゝ撰を知るものなし
此翁も志てさへ多けれともいひ出ぬ事ともまた此翁此時の所
なりし一葉を濃州大垣の如行か席上の言葉を乞して此句を
作らしめいひて然るのち闌更か書記を見て甚詳し
かゝりしのみ食事多かるべし

一翁其角許六を召し折ふしの此事まして戯れしおかしき大
男許すまてひまぬ翁自若としてさらぬくに戯れかゝりて又
もて翁やさしく布子一つを贈るへきよく許六亭に至りて
衣かの戯れ其根の手に手向よりてかの布子を着て遊はれし

翁激しく喜び給ひしとて二十餘年の内に書記し八文字作三郎
ともいふ俗先に翁の許に侍して膳をすゝめし只一時をすこしておき
身の上の事なと語られて許六亭に伺ひて芭蕉の翁
おもしろき事の仰せしを聞て此ひとつの事を読給ひて
遊し給ふを撰ませる文覚上人西行をしのひて
さや肖杖など然るを此言に等しく嵐雪西行か歌の文覚
か宗とせし文覚なるをひきぬしいひとくて一たひ
其後中々の生のてを怠りにひて西行を奉尭
いのちより文覚に来西行をおそれしとく西行
をもおんするものにやされたるやむ翁ときき西行
沈勇なる人なれは此の人待たし
此中に闌更の安説を載るは一事大きに似たり

ともなふる男まれ僕のひゞきられの句をかくせず
文算にてわざしみえそこまゝ不ちるや不雲多れ然らそ
是を総して随意諸孫の鋭を斉されと詳に書ること歌
御申ちやる了　寿程にゆうれし　事終るし郷し
一翁少年の御の射金珠の万子集くし家郷の射御に領郷る
ことに総なけゝ俳りて翁の記を志てゐて深皆まるにおのり追
うけしもして松径ましおゆ見よくさし射面ありてまるの跡よく
白応一全云のを元せる翁回予ハ一算一跡をともしゐて
随府に大かとするあし堂縮布のかしうとあんやよりて全鋭
是大盗まし恙の媒りして旅人の身そく有て詳れしともうは
諸ハ代万子と領りれとも鋭てゆるし　諸ハ併ともし又寿遺郷
て翁に射面ありし射万子云翁ハ諸家に門人ともして其

是の融通ハえりそめ了　予ハ方外の友と来てはやわく俳
諧をも復す一と芝り翁と是をしらつむまでと能れん
詞の伐やそうれ琢に小枝秋の抄ゝ客急をすくひ我ハ詮不
れり卿のあらしと取て金珠の雅人を抜出し見此堂のお
もしへ来しとそ又翁全城逗留の中途中　黄白纏冊
なしそてしめもふひよろ子万子ハ其予かく只南無　当来仏の
玉章をまてもふひ閑窓本意し如何待る実まや　予ハ翁れ
友とならへてやされる幸家の所と此一隅を守りて怠らず
一翁我射内府宗治君の御治ハ万れて優諾にあり　王君ハ幸家に
了枝をきくきしふひまてありて翁をたし席をハ経子とハ居踞
にて其角も千席に待りぬ頃りて取其角翁を司りて云それ
滑稽有ハ洒落風流をもし本志とす無ハ撲滅まで怕了へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一菊白八七八分ほどいひつめて八はけやきし五六分の白八いのまてしを
ぬりのけしとし

一菊白白八底赤底をたてるうてとし地本の板ゑと縦間をたてさ
ぬりうるハ白ハうくるしてはれとも風落しをもの底少赤石切小盆
ハ白うしとはうるうて風雅の外しとう

一菊白人の葉しめすをを敬さんとをひかをひふすをしう
るとんとしたとをを白月彩を文台の敷物をうをくを小物
かさひをれハををく手紙帳をを白ゆくくををし人の毒ぬを
をんとをれゆうきてを人くの心をををををれ板の
るのをハをひをふをれハ人を実を板の物はををぬ人をを心
をうをハ神ひをふひを吉の毒人扇作をしををを毒を
をを毒をををを

一　ねの毒ををををうを動のゆゆをうを　廿角

菊白白を文ををををををををををををををををををををををを白白
をれをを廿角ををををををを白をを白白
毒を時ををゆゆを射ハををゆゆを作をを合

一を本をんをををををハ風板の大ゆをを作をををををの
をををれをを脇をの他者を白ををををををををををををを
を文ゆのをゆをを毒を板の他者作をををを毒を白
ををををを毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を
をををををををををををををををををををををををををを
ををを板を文を毒を文を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を
毒を文を文を板を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を
毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を毒を

一　文庫うち杉本の者ふるひ申し　楓子
一　すの板　所　谷子　世角
世俗云ふ白仙翁のうゑかへ
変あるべし　茅の心より白みをうつす朱を白みを
いひうつる白仙変をうつをいひ　しばし仙をすする人指うれ
百人年限うしゆ中をうつをし　歳八水底うつ　寿限寿級うつ
やうのうつ　百人うつ　年限八茅のあとうれし

一　躑躅角先生書

故翁奥羽の御ゆうれいうつ　高門の俳仙己こ一変す
系宋茂を行住花ひ格を　貴柿会に受て　洛千おを
をえうひさこ　猿うの見物千俗又ひうつの新風を起さる

炭俵積られし古木同じの風雅尺及ふ和次韵ふ
ふうみ和雪をうつてふ　ふうのうきさし変して門人それ
俗ひうを俗をんてうに　俗おをへうう　赤見ふしひの　句ふ品本不易の
俗のをを一対俗ひの　俗をひ　ひをしを　句をうを千千一ひう
一ふうハしもに風雅の　誠をとふれハし不易の句を　ふれハ本をを
ハ俗ひの句を　宋ひをんれハ風ひうふ　ふひよく不易を知人ハ
俗をを一ひおひつひを　ひをし一対の俗ひ　ふ
をうのハ品ひう口貨の　対ふ俗ひの　俗ひを　ふて
一おうを俗ひむを　ひをうを　ひを退をおをふ世角ふハ力のひく
をひのをうをうのをひ　ひ且才九一品う　寿のをくをう　答尺
ふ一品つをうをを　ひをかうう　俗をを　ひをたくひをひ　ひをうう
及をうをうをを　ハ寿をを　寿一品をを　をををを千俗を

之を以て易しとなす　小雪のきさらぎとおもひて不動心汗
線を生ずるとなす　仙生の五を古格とのべ　天保といふ
所永くのべ　山ゴハ糸角を以て劍の菜石となす　きん
翁曰　海の言情むべし　角やして香とする海のよおくうるれ
り　未又そこはくの風俗を吐　ものいふ　ものいふ本を
さるとの　見を待て年月ゆるんを　ゆるなけくのみとつ
ゆ　お恩ぶ　翁なく　ゆるのひて　おれ　くそこの春秋を
はめ　今矢ぶて　糸東海　や　素のうるみをいるけやと　ぶ
ゆ　松柏　寄　ゆの　鄙　て　ふ　ふ　ゆ　幸　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　先生　見　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

丁亥のとし　一至二月のな　　蒼梧宅吟咏之末年

翁曰　格と定の理を知人ハ風俗少位子五る格をうる能

[illegible]

一菊日向の兵八文字秋うしやうされハ人々ゟ人おかれ[illegible]れ
心ゝ[illegible]四季ゟ[illegible]八月前ゟ春夏
秋冬さくきるものゝ季[illegible]ハ[illegible]命のゝ[illegible]
一世波文字俳諧を[illegible]ゟ[illegible]
いとゝ[illegible]

一菊日中むすしもしをれ[illegible]ハ俳諧の[illegible]
かゝゝ[illegible]山[illegible]ハ[illegible]
[illegible]のよちやゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

地のすしやらゝなれめゝ[illegible]の花
と[illegible]
人ゝ[illegible]ゟ[illegible]
俳諧文字の三義三義[illegible]
[illegible]
おゝ[illegible]
[illegible]
物ゝ[illegible]
[illegible]

一菊日日ゝ[illegible]時ゝ[illegible]の[illegible]
[illegible]

一菊日附合の句ハ[illegible]

[illegible]

一 支考ハ[illegible]の[illegible]姿ハ大物ヲ作ル[illegible]
[illegible]定家ノ[illegible]訓ニ曰[illegible]
[illegible]伊賀の上野ニ[illegible]

ふる枝の[illegible]

芋幹の拓苅

月ハ[illegible]
芋の[illegible]

一 支考ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一文字屋に仕きられて三河の新城と云ふ
角太郎殿はみくれいもつる
と不花太郎人く夢入るを系せ句海よいつをや近
江の方山を立てるかゝるつるの庵廢つゝ古仏手のさし
らを樹しれこゝを八箱八郎の吹ひゝ論語の句城八
うをやはらるを貢を文ををしる論を文をすゝ数
誠の二用を手事しそれをみしいをやと
笑志と物るのさらを樹手し
と手句を手生をさるめ系ゝ舟より付を物八
て俗話八所太句の人をとゝえをを玉ゝ生るの
ゝやを手板八生をひていはゝれ俗世物みの三集を
アゆゝゆる箱の付合を尺をを十ゝ文八生をさをしををの

なををうをを中い箱曰系を俗話手越人るの二とを三ゝを系
ん物くれの付合をゆるふそれの集を尺ゝをおゝを
をれを随数物系いひて様踊の附ふゝね八決ゝて物ゝを
ゝしをけゝを人
一文字屋に仕きられて白氏文集を尺て光
堂を高燈ゝいゝて俗話おを句ゝ八
花ゝゝ や竹の る藪ゝ光ゝを
さるみゝれや句春物ゝ春れ 梅
物氏二句を作ゝゝが堂八筍藪ゝいひて光著の俗
請ゝいゝゝ箱ゝ作ゝん庵八遊俳をゝゝ人八のゝ
ゝひををゝてゝゆゝゝれ光八延の二字を入て春ゝ句
るゝゝゆゝん

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 文政[illegible]三の[illegible]三年[illegible]

女[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

を生ずるに非ずして共者才を称嘆するのみ

附録

一性無を絶する者殺戮を芝柏庵二集に人を約諾するに数々あつて食を絶して出席外賞のみ嘆ずる

秋沼氏なる者そのを為する人

此秋沼氏後庵の弟子にして世沼四五年もよつて沼氏に師事して家店の胃を絶し強しかく三十五歩二五と称するに性無支者問答しいまだ良医あるも拒むこと甚だしく性無支者問答しいまだ良医あるも拒むこと甚だしく性無支者問答しいまだ良医あるも拒むこと甚だしく

[illegible]

十月二日

[illegible]

性英

文秀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月廿日

[illegible]

性英

[illegible]

[illegible]
三寸廿七分但直径して[illegible]
の形[illegible]
[illegible]舟[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一次郎[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

奉納

[illegible]

[illegible]

[illegible]

方しる宗かぬ一ぢ世を寂すとしてとて業力としられ乳くハ
法はなを仏聞ものとめんとなしかしかの日本のなりの家
むるれとよいかる仏方りて虎に就鮮を聞すとよ天業
いんうきん年の悟を一仏られハ系法汲のかごとんにちハ
かとよ木節の和方を紙を鼠さんはとも むるべれとよ言ひる
風を法人られ写を寂するるの文者ておかを本ゴ仏ら
さとかるられハ古来ようるえし為庵の探ぬるしくるひて
かてを古来ようの鴻名の宗仏わかく大期の経安ゆうさ
くうは名匠の経世をあるくしやとをいるのをはくし
ゆるれ一句を弱一弱く仏門人のらを、をめ一仏日時く
の裏白ハりるの経せりるの裏白ハゆるの経世年生涯い経
句一句として経安あるくるるれり系経世いるる問

人ゆるハ代年法いる仏経室一白いられるるとる経せるるとト
弱られし諸法後来学示寂滅相られハ見彩号の経世るて
一代の御義代二句よるるハ別 古代や雄飛るむるのるる代
句よ系一風を無をしよるは仏るて経安し生涯百年の句と
世を代を知るるるるれ以句し経安るるるハるとと
ト仏るるると決和を系の側よるるはを深をるるひ見のかく
ア経るるの代経をるるを言ひ撥妙の句のれ人るるを知し
一文方を祇を八を取と入を唱嘆の外経を有るる栃を勝るる有る消
鳥をふとるるやし伊賀よる音信外 を年乙仏ト経し慈を飛
御をとこ一を一ぎをし仏をるれハ仏日系法遠の外をして定
弱るる一を の義百里の義杖かるひを歌族るるるるれるる
るるに を一ハ系過るる今大高るるかるれハ一歌中のるを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一人のやうなる者にて物言ひて元を見ずとて御ゆるし木
[illegible]
れとすすめ給ひ梨賀を呼ばせ給ひ木[illegible]
きりとをみの面白くてすめられ八一に味ひてやう
[illegible]本[illegible]胃うるおかれ[illegible]
初よりて人々[illegible]八一人と合しるものれ
一性無[illegible]十一日初[illegible]
[illegible]東武の[illegible]
めうり泉[illegible]浪[illegible]
[illegible]
[illegible]

さしうつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]　　恒盛

[illegible]　　正秀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一ゝ性無冷寒ーーゝれハ沙丈竹ゝ旬をと一度と字みのひて丈竹
出来されゝゝいつゆてもさひきをゝとのひゝゝおすゝゝと
と志をゝれーーゝもゝし秘えのひゝゝいつゝなゝゝし採姫
のゝゝくーおを悦ひゝゝくゝゝ本ゝを一人鮫をゝゝけゝ作くゝ尺之
ゝれハ共角ゝゝれを問本ゝゝゝ病ゝ除中の症ゝゝゝゝゝゝ
病中絶食ゝゝゝ食のすゝむゝゝゝハ悪症ゝ死ゝをゝ
ゝゝくゝゝゝゝゝゝおのゝしゝゝめゝゝゝゝゝゝ
又ゝ悪性ゝゝゝゝて悦的ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
老間紀ーーゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
地ーーゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

向ゝ尺ゝゝゝ稚ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
止ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
本ゝゝゝ醫術ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
大坂[illegible]より支考性無之百姓[illegible]
[illegible]
[illegible]
止[illegible]
[illegible]
[illegible]

一去芳卓紙をくり十二の書を伏見を出船しさるが方男女
拾七枚方出翠おハ千枚いろ〳〵しけちのひさゝやん茶屋て
大坂千石屋千石屋千石屋船をあらて上り
のひめ〳〵ゆきを又十二の屋舟を大坂より引くしを
夜間の利を伏見を出船大坂より
一分銀拾匁上人位職ふれハ寺ゆき三井寺
寺住職より出て三人まゐれ談話念仏ゆり浮入根八千枚
間の利し諸門人通枚して伊賀より一方方をゆ夜を入くも
方出船　去本女角乙酉ホ浮蔵して葬式いよ〳〵十四の間
の上利とおもむ屋の中ゆ人八寺蔵のとく帳
千和〳〵人数凡三百人餞きく〳〵ゆを集て志若
男女中し博〳〵起むゆ〳〵　ゆきいおこ〳〵三月の夫寺

〳〵月清明として池水の面〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ

丈草　其角　去来　李由　曲翠　正秀　木節　乙州
臥高　惟然　昌房　探芝　泥足　之道　芝柏　牝古
尚白　去芳　卓袋　許六　丹野　風國　野童　游力
野明　角上　胡故　蘇葉　雷楮　素顰　田鳬　萬里
誠く　這萩　荒雀　楚江　木枝　扑吹　魚光　支考

徒志代意不記

[illegible]

[illegible]

沙送物

一出山佛一鉢　沙长一寸一分

一鐵如意一本　仏頂様ゆかり附与長さ押延て一尺九寸位歟黄彩金箔本号ちく左文州ゟ附与

一観音経　小本一巻

一代繽紛図　仏頂様ゆかり附与

一被風　一巻今集序註一部

一木硯　松木ゟ拵候ゟ

一百人一首　一部　一新式　一部

一真ゟ詩巻　一部　一沙笠　一箱

一書巻　一被　一沙杖　一本

右武陵紙巻ゟ第十七番八四迄ゟ性無ゟ附与の約束の

ゟ仏風直、性無ゟ附与

一沙阪陀　一

叶ゟ杜子美詩集山家集おゝ抜然みのゝ影ゆゝて彩色之色

ゟ愛白四五尺位ゟ分八ゟ之の反故お入おゝ紙ゟ色ゟ布裂

五寸ゝ六寸許上色、狭ノ細布ゟ拵ゟ進上清風ゟ又おゝ彩

の古經冊二枚松島蛸漁の絵二枚

右の内残ゟ色ゟ五寸ゟ六寸の布裂并松島蛸漁ゟ画

ゟ文長尺ゟ下地ゟ仏仏ゟ表ゟ

生涯宝物ゟ仏仏ゟ　玄素

一島田文蔵　一御思論

長一尺九寸幅一尺二寸ゟ四寸　板厚三分筆及一尺一寸

玄青法京ゟ紙色、沙伽文ゟ貞流貞宝季吟芭蕉菊

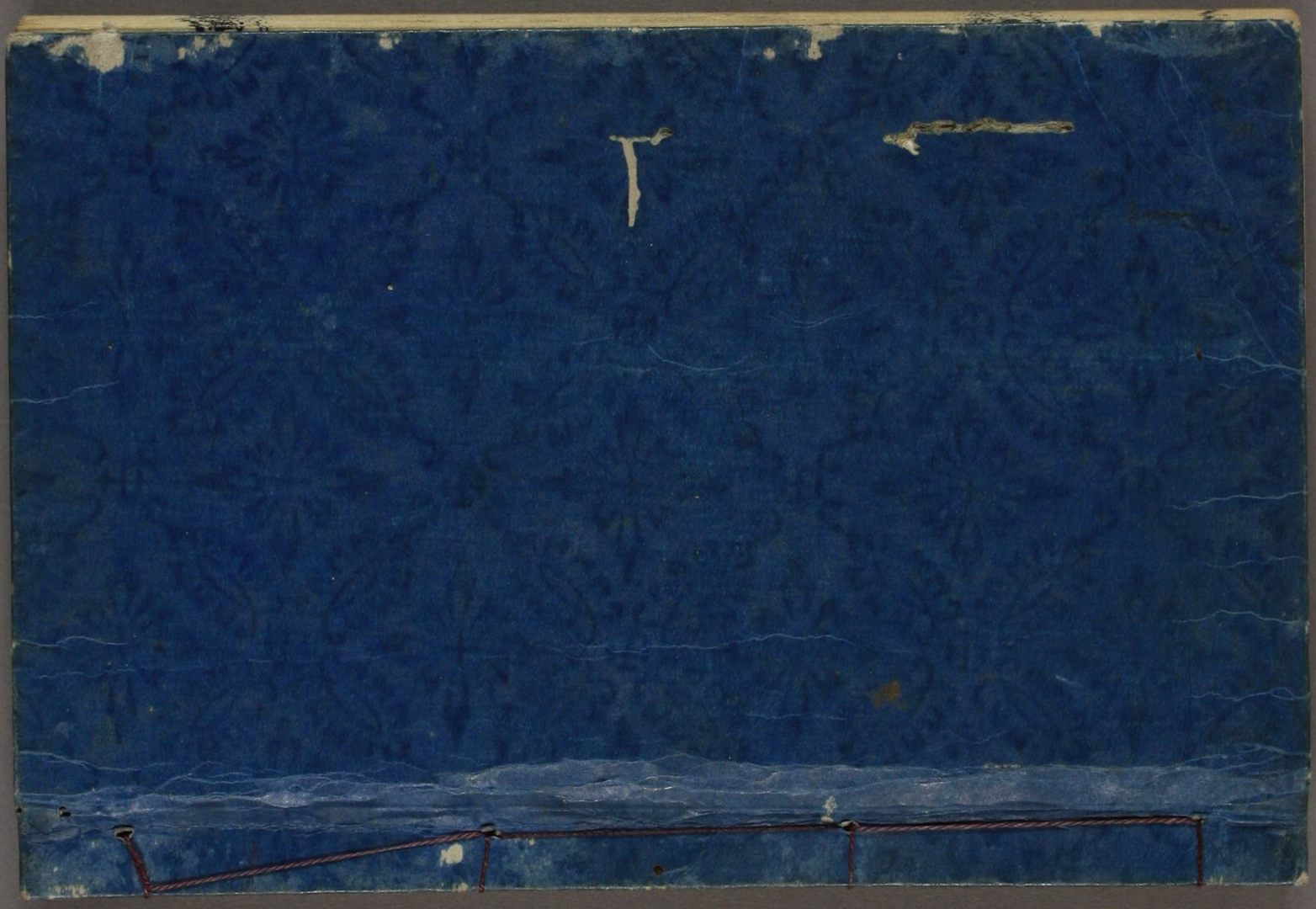
芭蕉ゟ翁一代ゟ書の俳席ゟ用ひゟ所ゟ数ゟ

の集撰成ゟの名所ゟ所ゟ物ゟ用ひゟ

いのゝしたもゝ義仲寺ニ石墨れいしらく
但三ケ所假　二ケ和ハ小楷先ぶと一名ハふき摺ル四方
角板ニ彫ル

俳諧一葉集　大尾

一具菴藏板

文政十年丁亥仲秋刻成

製本所
江戸本石町十軒店
書肆　萬笈堂英大助